

南林さえ子先生を送る

経済経営学部長 佐川和彦

本学は1987年に開学し、本学部の前身である経済学部は1990年に開設されました。2019年3月をもって退職される南林さえ子教授は経済学部の創設メンバーの一人です。

南林先生は、1971年に横浜国立大学教育学部を卒業後、大成建設に入社されました。同社を退職後、1975年1月に産業能率短期大学システム開発研究所に入所され、同年4月からは同短期大学能率科助手になりました。その後、1982年に講師、1988年に助教授に昇任されました。この間、1986年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程を修了し、1990年3月まで同研究科博士課程で研究を続けられました。そして、1990年に開設されたばかりの本学経済学部助教授に就任され、1994年には教授に昇任されました。

本学就任後の先生は、教員・研究者として多方面で活躍されました。愛情あふれる教育でこれまでに多くの教え子を世に送り出してきました。少人数形式の演習だけではなく、多くの学生が受講する「基礎数学」でも寺子屋方式で一人一人の学生を大切に指導されました。研究面では、地域、市民意識、高齢者、ボランティア活動、防災をテーマとした多くの優れた業績を残されたことは、誰もが知るところです。学部・大学の管理運営面でも、学生部長、学部長、副学長、情報処理教育センター長などの要職を歴任し、本学の発展に大きな貢献をされました。学生部長就任以来、先生が力を注がれたのは、学生支援とボランティア活動です。副学長としても、学生支援を担当され、本学開学20周年記念事業の学生企画募集などを指揮されました。「梅林運動」という事業は、現在まで継続して行われています。また、地域にも多大な貢献をされています。一例として挙げられるのは、飯能信用金庫との産学連携事業です。アンケート調査にもとづいた分析によって、8回におよぶ調査報告をされました。

これらの活動が高く評価されて、先生は2013年6月に本学のプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー賞を受賞されました。われわれ後輩教員の模範となり、教育・研究そして学部・大学の管理運営に粉骨砕身されてきた先生に対して、

この賞が贈られたのは至極当然のことと誰もが思いました。ご退職によって先生が抜ける穴はあまりにも大きく、あとに残されるわれわれがどのようにやり繰りしていけばよいのか、正直なところ不安でいっぱいです。これまでのように、いつもというのは甘えであると重々承知しております。どうかお時間を見つけて、われわれ後輩を叱咤激励するために本学を訪れていただきたいと願っております。

先生の長年にわたる多大なご尽力，ご貢献に対し，心より感謝申し上げますとともに，今後のますますのご健勝，ご活躍を心より祈念いたします。